

映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

ドキュメンタリー映画

人間の街

—大阪・被差別部落—

第1回人権問題講演会

映画「人間の街-大阪・被差別部落-」1986年/80分

講演「差別って いったいなんやねん？」

山口県人権啓発センター

事務局長 川口 泰司 さん

9月4日(日)13:30~16:30

コムズ 5階 大会議室

(入場無料・定員100名*申込み不要)

山口県人権啓発センター

後援:松山市教育委員会・松山市公民館連絡協議会・松山市人権教育推進協議会

愛媛新聞・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・FM 愛媛・あいテレビ

愛媛朝日テレビ・愛媛 CATV・リビングまつやま

Do

主催:NPO 法人「Do」
(松山市委託事業)

映 画：「人間の街 ー大阪・被差別部落ー」 1986年ドキュメンタリー作品/80分

監督：小池征人

企画：同和対策審議会答申 20 周年記念映画製作委員会

製作：山上徹二郎 撮影：一之瀬正史 音楽：小室等

=解説=

差別の重さ、人間の輝き

映画は郵便局勤務の男性の語りから始まる。彼のところには名ざしで職場をやめろ、死んでしまえなどという手紙が来る。差別は厳然と存在している。この映画は被差別部落の人びとのさまざまな語りから その差別の重さを感じさせる。いくつかの物語をつなぎ合わせて、人間のもつ輝きを拾い集めようとしている。

立ち上がる解放運動

住宅要求闘争を語る女性。入居した時はうれしかったが、部落の共同性が失われていった。また、住宅がねたみの対象とされ、新しい差別をうんだ。部落の男性と結婚した女性は、結婚後 15 年たっても家族との交流がない。しかし、彼らは差別にうちひしがれてばかりはいない。

「障害児も地或であたりまえに生きてほしい」と解放運動に教えられ、障害者の施設を部落の中に作った人びとがいる。「この地或やから生きてゆけるんちがうかなー」と語る。水俣出身であることを隠してきた一家は子供の保育園入所をめぐって部落の人たちと知り合い、解放運動に立ち上がった。「部落は私のいのちです」と母は語り、息子も「部落がふるさと」と言い切る。

「誰かが牛殺さな」

圧巻は屠畜場の屠畜シーンと屠畜技術者が小学校に出向いて自分の仕事について子どもたちに語りかけるシーンである。ナイフ一本で肉にしていく確かな仕事は職人芸である。彼は言う。「“誰かが牛殺さな、食べてかれへんねん、肉食べられへんねん” と言えるくらいな、みんな子供になってほしいなと思う」

講 演：「差別って いったいなんやねん？」

山口県人権啓発センター

事務局長 川 口 泰 司 さん

=略 歴=

- 1978年 愛媛県宇和島市の被差別部落に生まれる
- 1994年 宇和島市高校生友の会を結成
- 1997年 桃山学院大学社会学部入学 部落解放研究会に入部
- 2000年 大阪学生部落解放連絡協議会 事務局長
- 2001年 (社)部落解放・人権研究所 啓発企画室に勤務
- 2004年 大阪市新大阪人権協会に勤務
- 2005年 山口県人権啓発センター 事務局長



=講師より=

差別なんてしていない、部落問題なんて関係ない、と思っている人の心の奥底に「ほんまにそう？」と問いかけたい。キレイゴト、タニンゴトじゃない、人権教育は自分自身の心の奥底のドロドロしたものをひきずり出して、自分自身が解放されていくことなんや、と伝えたい。「部落差別って、今、どうなっているの？」「何で自分が差別の勉強をしないとイケないの？」などの答えがみつかる講演です。

NPO 法人「Do」(同和問題を考える市民の会) 〒791-8036 松山市高岡町 171-8(高松)

理事長：那 須 洋

事務局：高 松 さよ子 (携帯：080-6394-6924)